

- ◆ 当初の事業目的である「安全対策の高度化」に立ち返り、合理的・効率的なMID-NETの運用を目指すため、下記の3本柱をMID-NET改善最優先事項として取り組む。

<MID-NET改善策の3本柱>

- (1) 将来像の明確化：データ規模拡大のためのロードマップ策定と要件の検討
- (2) 利便性の向上：MID-NETの利活用に関するガイドラインの改定をはじめとした制度面の改善
- (3) 行政利活用の活性化：安全対策におけるDB利用スキームの明確化と実績創出

(1) 将来像の明確化

患者規模の拡大

- MID-NETの協力医療機関として徳洲会グループから更に10病院を追加し、計20病院のデータが利用可能（2024年度より利活用開始予定）
- **他のデータベースとしてNCDA（国立病院機構が運営するデータベース）との連携（2023年度下半期より一部データを利活用可能とする予定）**

(2) 利便性の向上

- 利活用者のオフィス内（MID-NET 接続環境）から MID-NET システムへリモートアクセスを行うことでデータ解析が可能
- ウェブ会議システムを用いたリモートによる MID-NET 研修の受講
- リモートアクセスによる標準コードマスタ及び GPSP 関連資料の閲覧
- **利活用期間の延長に係る事務手続きの効率化**

(3) 行政利活用の活性化

- 安全対策措置のより早期段階における安全性情報の蓄積に貢献する調査として、2022年1月より運用を開始
- **早期安全性シグナルモニタリング（シグナル検出）の対象を、緊急承認制度や特例承認制度が適用される医薬品にも拡大**